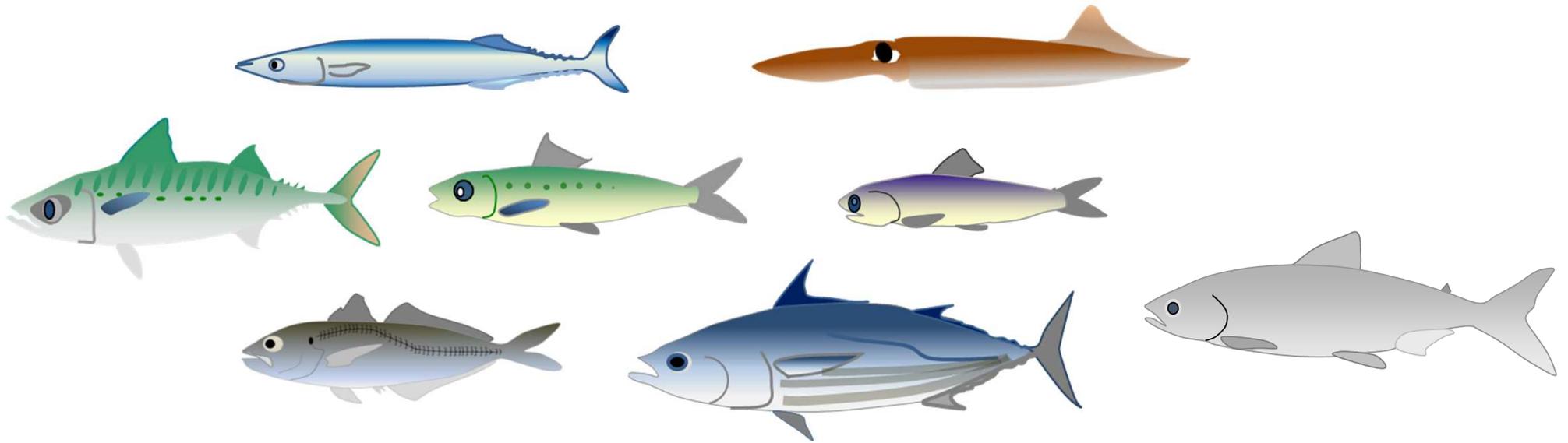


# 我が国の主要浮魚類水揚量と価格の動向： 2018年を振り返って



一般社団法人 漁業情報サービスセンター (JAFIC)



この内容は おさかな広場 <http://osakana-hiroba.jafic.jp/> で 1月21日 (月) 公開予定

# 概要

- 漁業情報サービスセンター（JAFIC）では、ホームページ「おさかなひろば」で、全国主要港における市況情報などを公開しています（下図）。
  - ここでは、JAFICが漁況・海況情報の主対象としている重要浮魚類について、市況情報等をもとに、2018年の水揚量を過去5年間と比較するとともに、資源評価における「動向」と比較しました。また価格の動向について、考察しました。
- ※ここで示す水揚量は、JAFICによる主要港における集計値を使用しました。

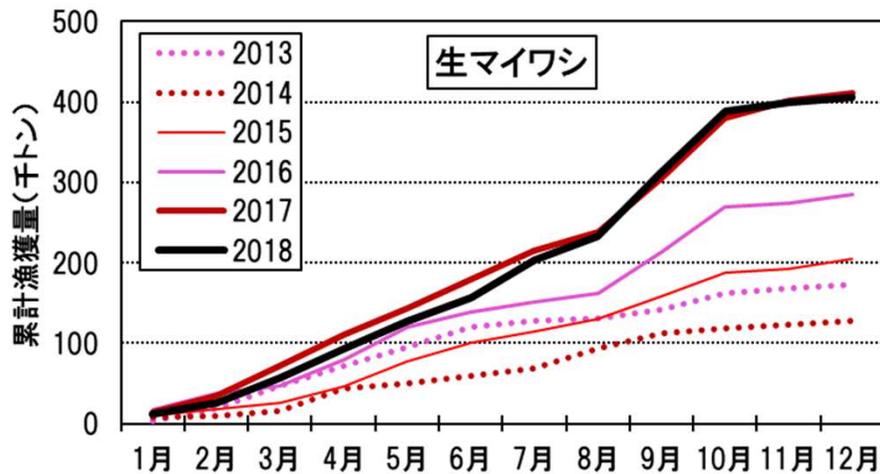
The screenshot shows the homepage of the JAFIC website, 'Osakanahiroba'. The navigation bar includes: TOP, ご利用ガイド, 日報, 月報, 年報, 統計情報, アーカイブス, 関連情報. The main content area is divided into several sections:

- 本日の水揚げ情報** (Today's Catch Information): Updated daily at 16:00. Includes market-specific and fish-specific catch reports.
- 水産物流通調査** (Fishery Logistics Survey): Updated monthly. Includes surveys on domestic and chilled fishery logistics.
- JAFIC** (Japan Fisheries Information Service Center): General information about the center.
- 水産流通ポータルサイト** (Fishery Logistics Portal Site): A platform for promoting domestic fishery logistics.
- 水産物市場月報** (Fishery Market Monthly Report): Updated monthly. Includes market information and analysis.
- news JAFICEYE**: A news section for members.

On the right side, there are sections for **お知らせ** (Notice), **会員登録について** (About Membership Registration), **イベント情報** (Event Information), and **トピックス** (Topics). A **日本周辺** (Japan Surroundings) section features a map and **日本周辺漁海況情報** (Japan Surroundings Fishery and Sea Condition Information), updated weekly on Mondays at 9:00. It includes a link for **過去のデータ** (Past Data) and lists links for **イワシバ漁況・市況情報**, **スルメイカ漁況・市況情報**, and **サンマ漁海況情報**. A note states that fishery reports are published weekly and can be viewed by clicking on the links.

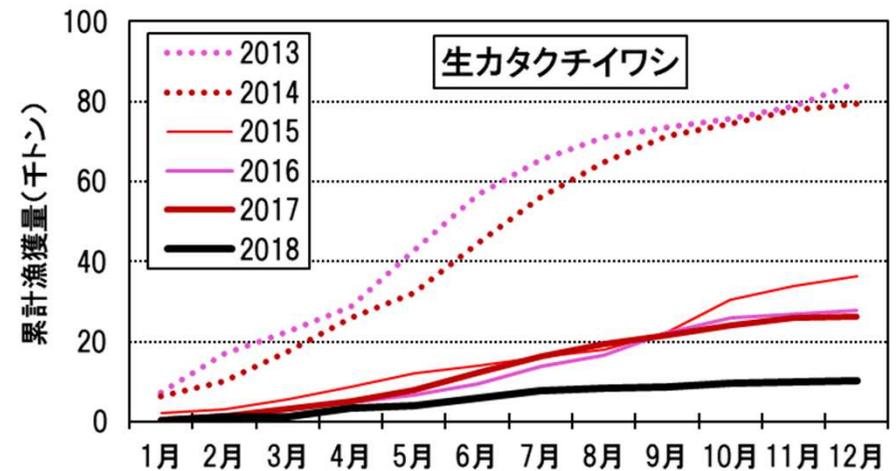
# I. 2013～2018年の主要浮魚類水揚量の動向

## ①マイワシとカタクチイワシ（生鮮）



水揚量は年々増加し2017年は40万トンを超え、2018年も前年並みでした。これは、特に太平洋系群で2015年頃から好調な加入量が続く一方で、漁獲圧も低めに推移したためと思われます。そのため、2017年に比して小型魚の割合が増加しました。

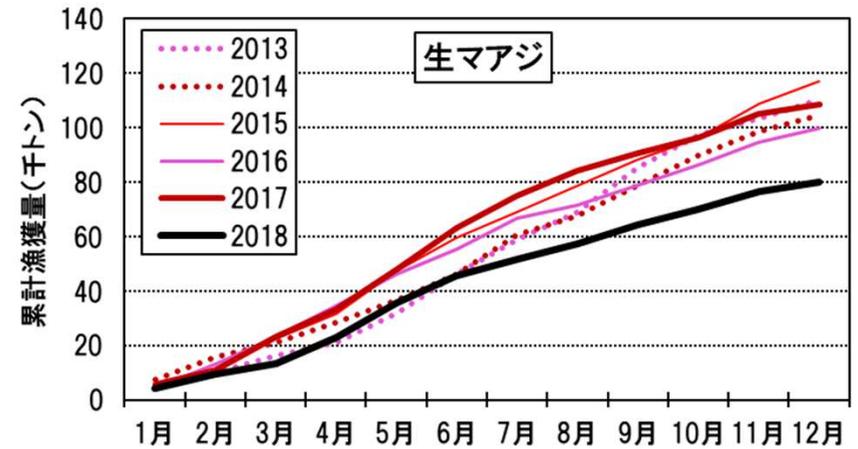
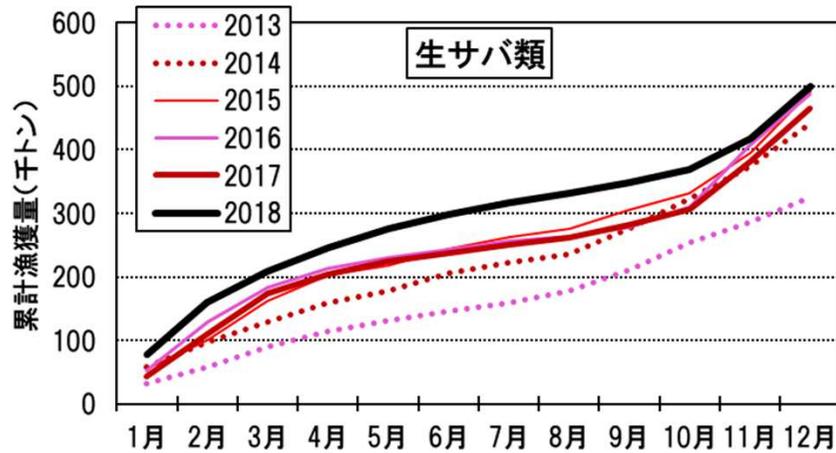
2018年404,837トン（2017年比99%）



水揚量は2014年に比して2015～2017年は約1/3となり、2018年はさらに減少しました。これはカタクチイワシ水揚量の半分以上を占める太平洋系群の加入量と資源量が減少しているためです。そのため、カツオ竿釣り漁業への活餌供給にも支障をきたしています。

2018年10,114トン（2017年比38%）

## ②サバ類（マサバ・ゴマサバ生鮮）とマアジ（生鮮）



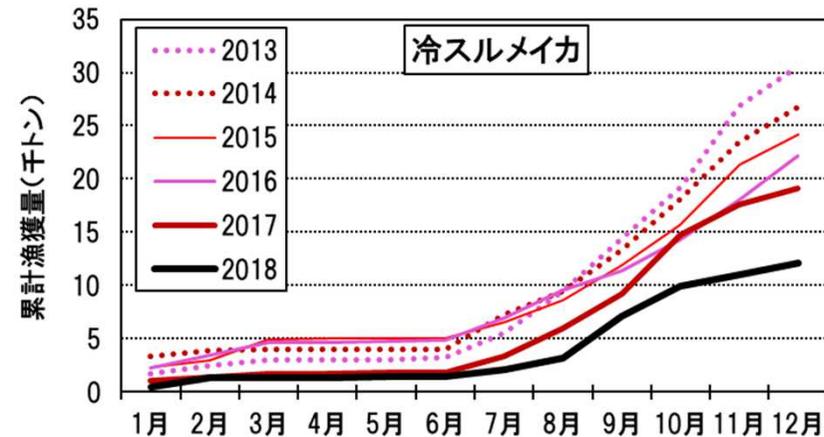
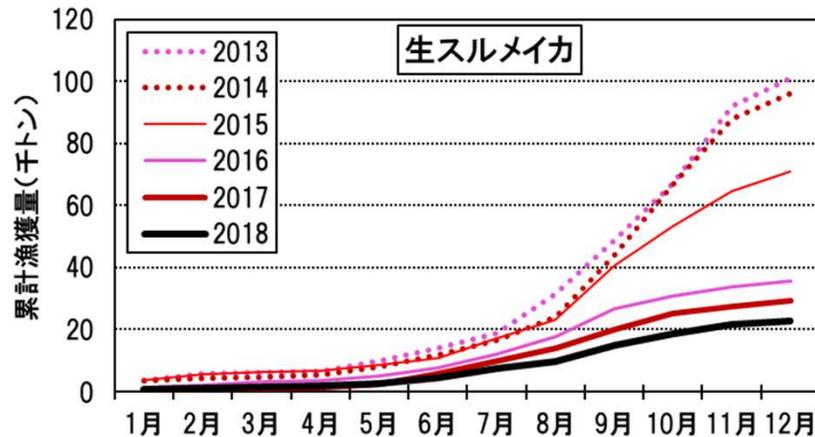
水揚量は近年増加傾向にあり、2018年も増加しました。これは、サバ類の近年の資源量の約半分を占めるマサバ太平洋系群の卓越年級群

（2013・2016年級）が成長は遅いものの順調に水揚されたことが主要因と考えられます。なお、ゴマサバは減少傾向です。2018年9月頃にマサバ太平洋系群が不漁でしたが、この原因は東北～道東が高水温に覆われたためと思われま  
す。2018年500,673トン（2017年比108%）

資源の動向は系群により異なり（太平洋系群で減少、対馬暖流系群で増加）、水揚量は2017年まで比較的安定していましたが、2018年は減少しました。この主な原因は、水揚量の多くを占める対馬暖流系群のまき網の漁獲努力量が台風や他魚種狙いにより前年より少なかったためです。

2018年80,250トン（2017年比74%）

### ③スルメイカ（生鮮と冷凍）



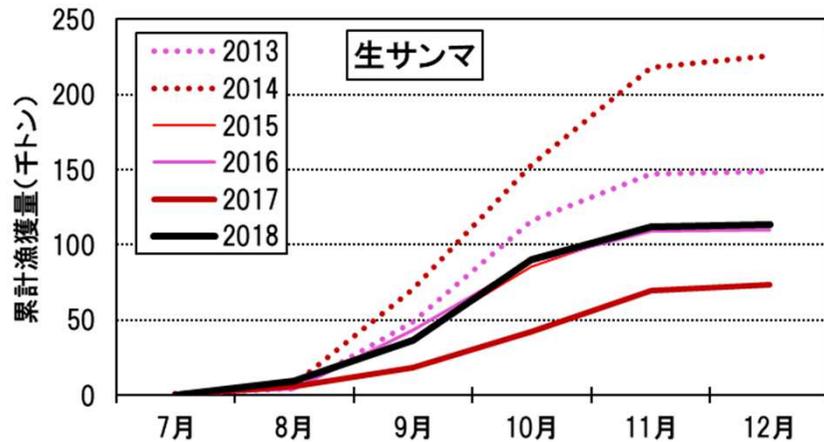
生鮮は水揚量が激減した2016年以降も減少傾向に歯止めがかからず、冷凍は著しく減少しました。スルメイカは寿命が1年で、秋生まれ群（主に日本海を回遊）と冬生まれ群（主に太平洋を北上し日本海を南下回遊）から構成されます。平成28・29年度の資源評価では、両系群とも資源動向が「減少」でした。また、2018年の日本海と太平洋の漁場一斉調査でも、調査海域全体の平均CPUE（釣り機1台1時間当り漁獲尾数）は2017年を下回りました。また、日本海の高水温化に伴い、日本海での南下ルートが北よりにシフトし、日本漁船が漁獲しづらくなったことや外国船（含：大和堆周辺における北朝鮮による違法操業）による漁獲なども影響していると考えられます。

生鮮＋冷凍 2018年34,894トン(2017年比72%)

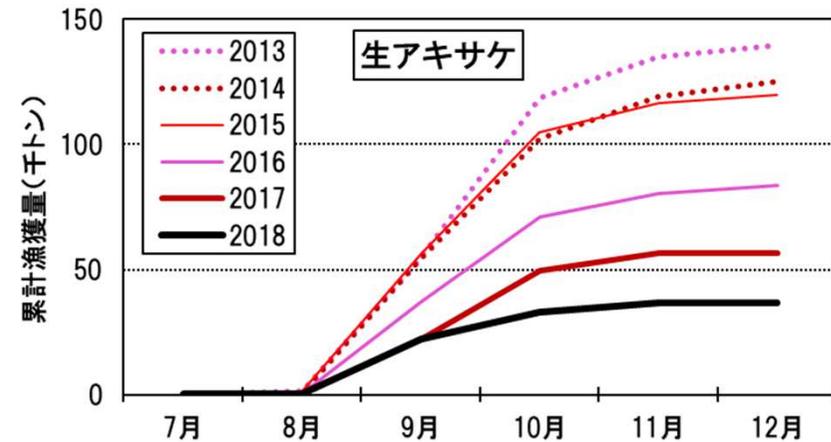
生鮮：2018年22,760トン(2017年比77%)

冷凍：2018年12,134トン(2017年比64%)

## ④サンマと秋サケ（生鮮）

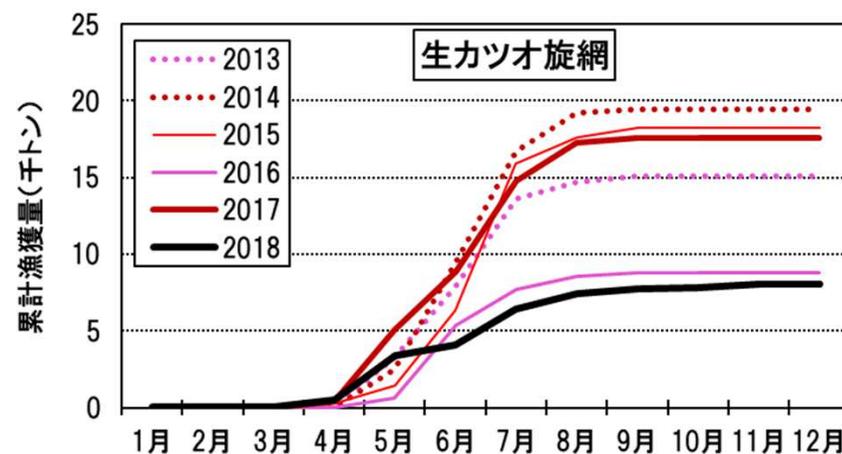
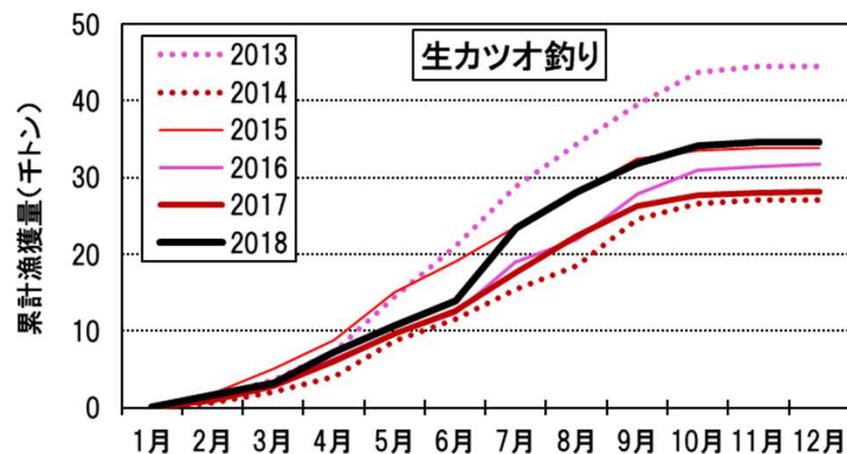


近年水揚量の減少が続く中で、2017年は7万3千トンと1980年以降最低の水揚量で、大型魚も少なく痩せていました。2018年は型も良く水揚量は2015年・2016年並みに回復しました。しかし、近年の海洋環境の変化や外国船の漁獲の影響などが懸念され、NPFCにおける検討に注視が必要です。  
**2018年113,441トン(2017年比155%)**



水揚量は2014年・2015年（約12万トン）から、年々減少しました。1990年代以降、北太平洋全体のサケ（シロザケ）資源は高水準にあるため、温暖化など日本周辺の海洋環境の変化の影響（特に、早期回帰群を主体とした従来の資源造成に対する秋季水温の高温化の影響）などが懸念されます。  
**2018年36,586トン(2017年比65%)**

## ⑤カツオ（生鮮）



2018年はカツオの北上を妨げる伊豆諸島の冷水域が春先に見られましたが、2017年より小規模で4月には解消しました。2018年の竿釣り水揚量は昨年より2割ほど多く、2015年並みでした。また、東北沖の漁場が暖水塊の影響により高温となり、沿岸寄りに漁場が形成されたことが好漁の一因とされます。旋網による水揚量は2016年は前年までの約半分でしたが、2018年も前年の約半分でした。2016年と2018年は旋網が価格の高いキハダやビンナガを狙ったためとされます。中西部太平洋全体のカツオ資源は健全（親魚量はMSY水準を上回る＝乱獲状態ではない）とされていますが、日本近海への来遊量は減少しており、WCPFCでの検討などに注視が必要です。

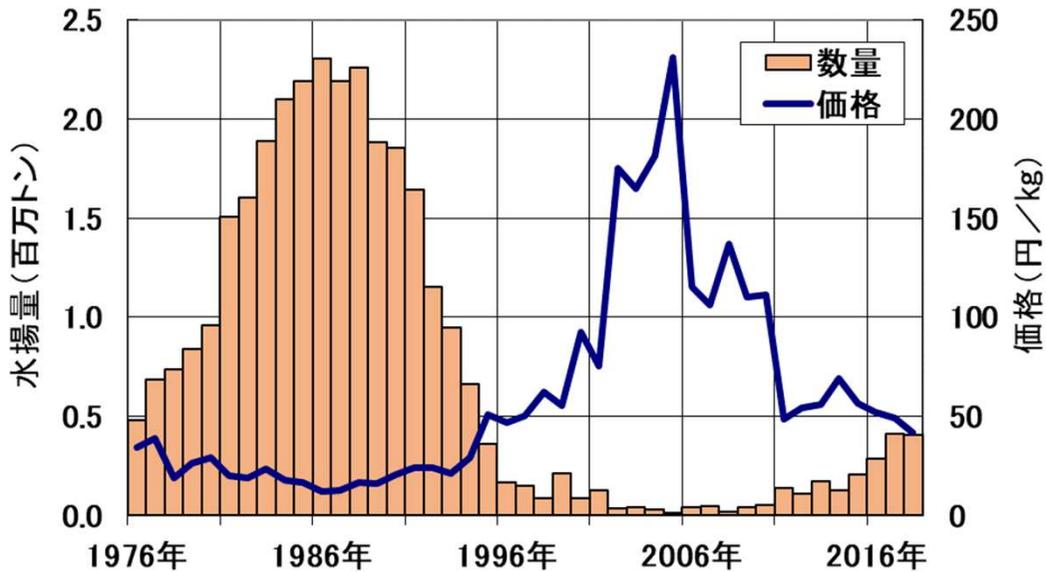
釣り + 旋網 2018年42,761トン(2017年比94%)

釣り：2018年34,697トン(2017年比123%) 旋網：2018年8,065トン(2017年比46%)

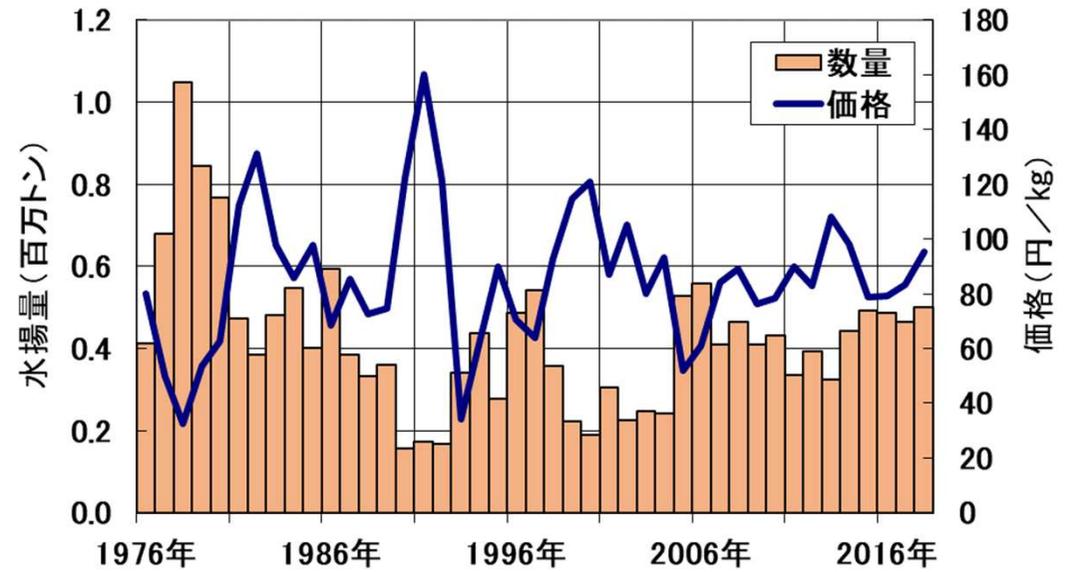
## II. 2013～2018年の主要浮魚類水揚量と価格の動向

### ①マイワシとサバ類

マイワシ



サバ類

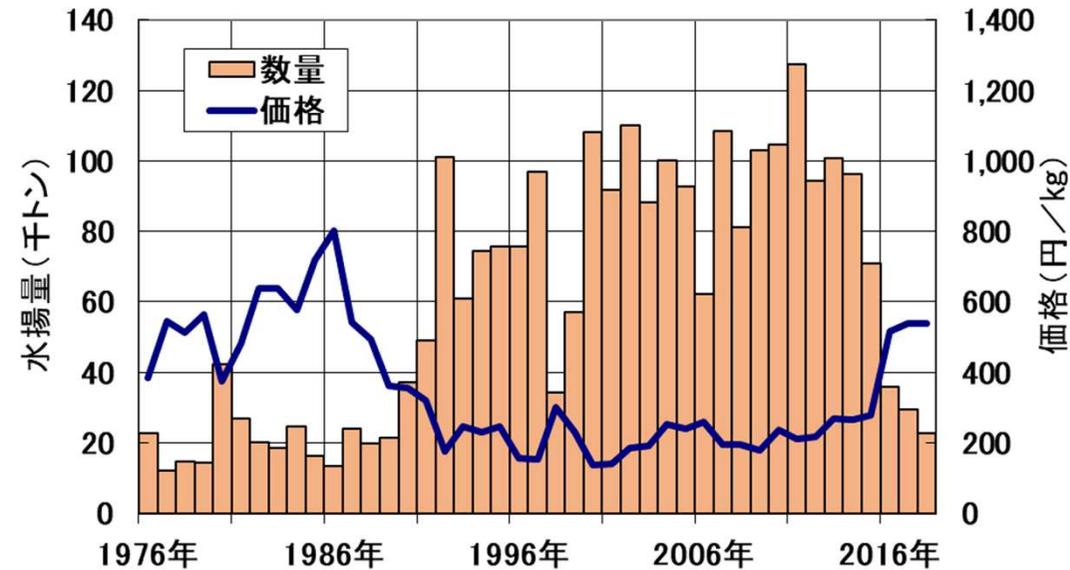


約40万トンの水揚に回復しました。2005年頃は不漁のため、魚価は200円台まで高騰しました。輸出は2016年は4万トン、2017年は6万トン、2018年(11月まで)は9万4千トンと増加傾向です。

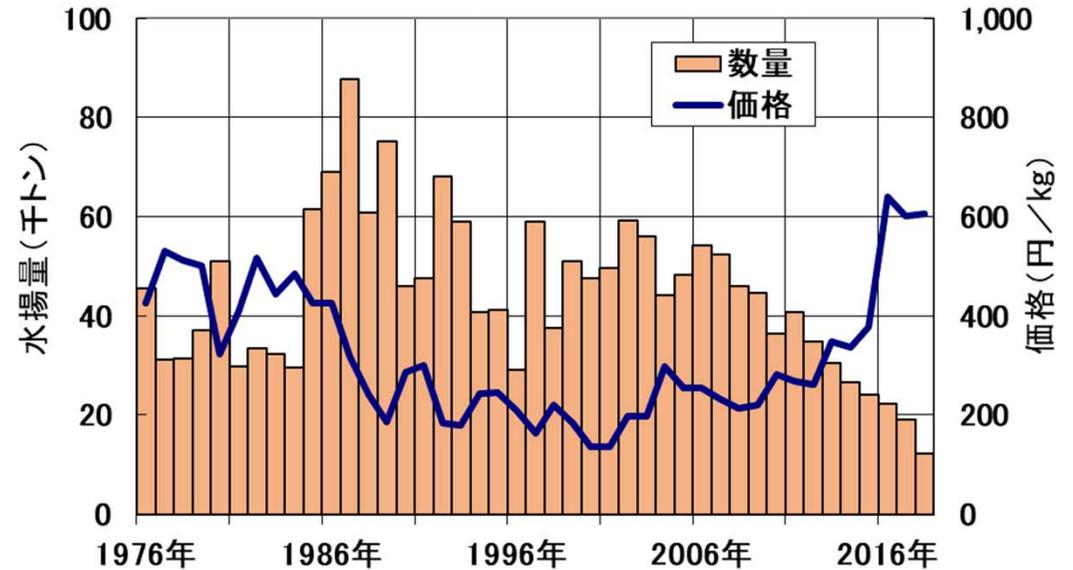
魚価は2018年前半が70～80円台でしたが、サバ缶詰ブーム(1年以上続く)や冷凍サバの輸出が好調で、年末にかけて110～130円台まで高騰しました。2017年・2018年は水揚の約半分がアフリカや東南アジアに輸出されました。

## ②スルメイカ（生鮮と冷凍）

### 生鮮スルメイカ



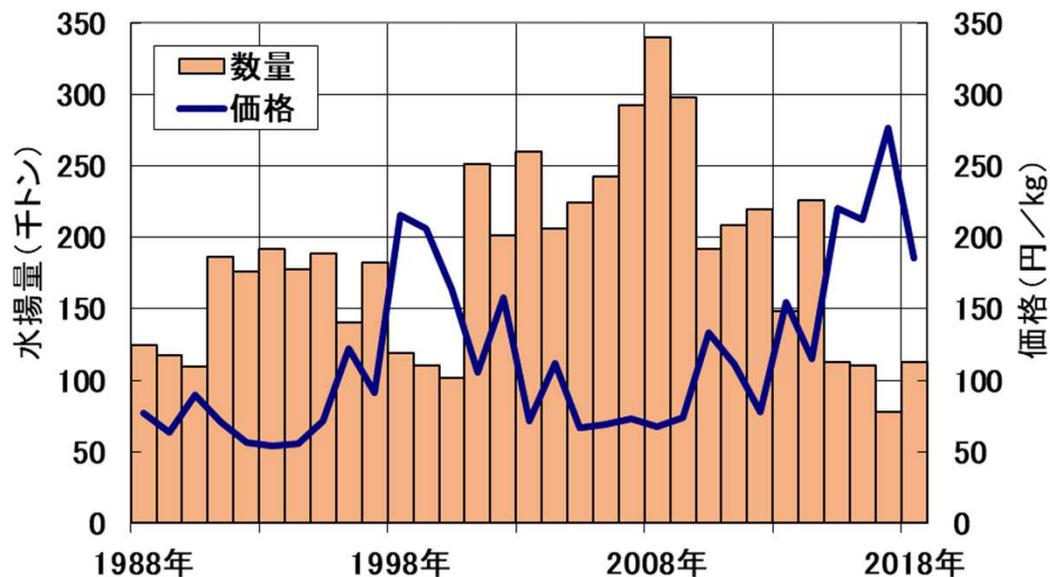
### 冷凍スルメイカ



3年連続の大不漁で、魚価は500～600円台と1980年台前半まで高騰しました。釣り物とまき網物とトロールの価格差は小さくなりました。

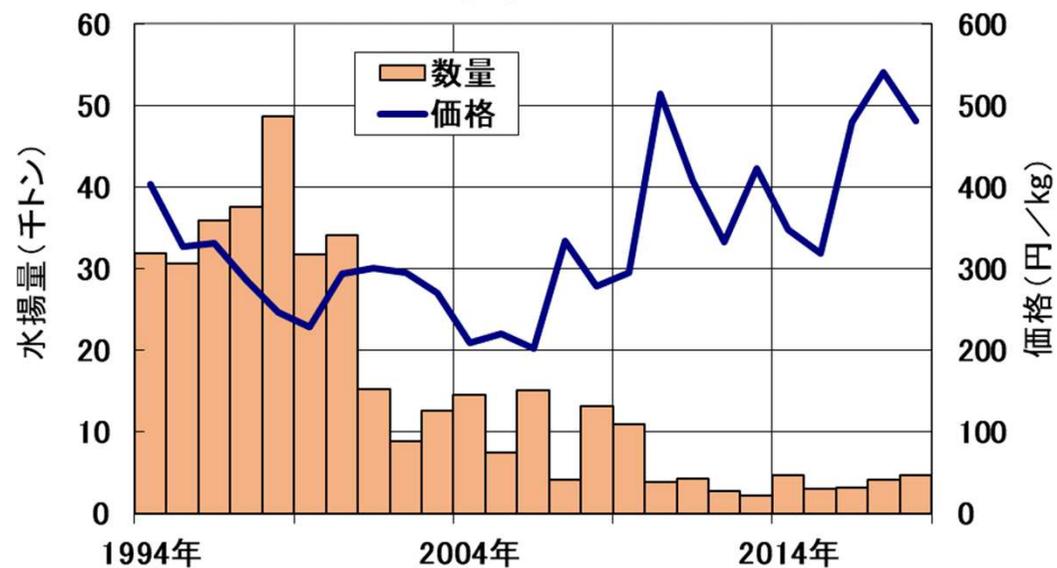
### ③サンマとアカイカ

サンマ



ここ数年は1990年代後半を上回る価格まで高騰しましたが、2018年は2017年より下げました。

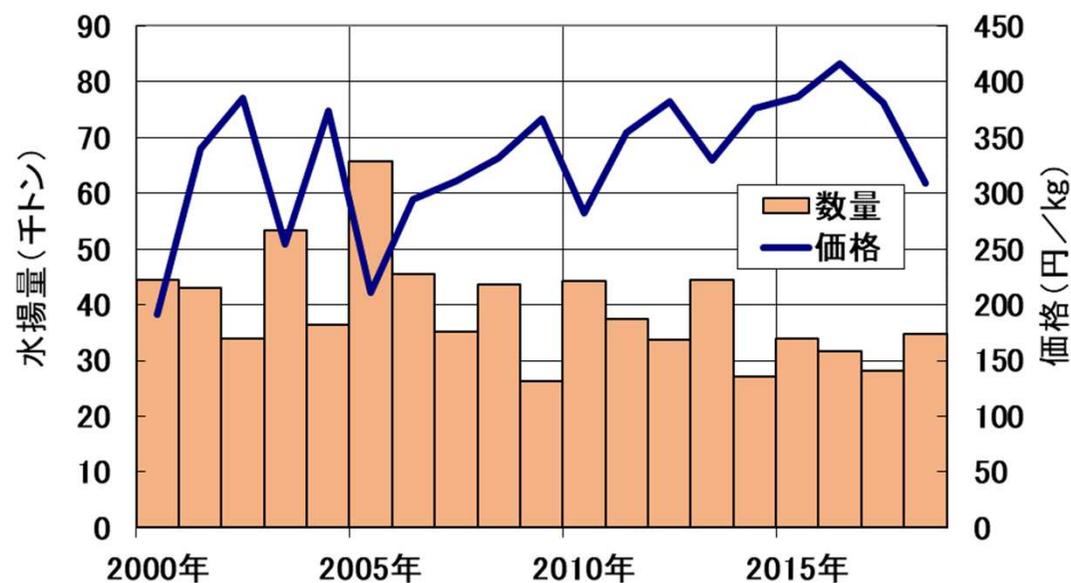
冷凍アカイカ



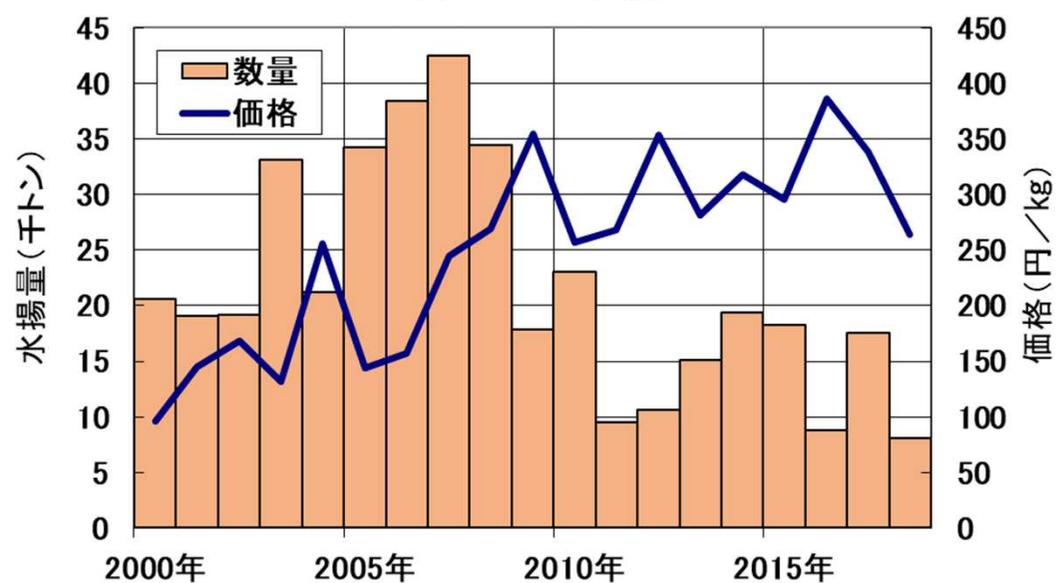
近年は、出漁船が減少し、20年前の1～2割の水揚量しかありません。浜値は500円台と倍増しました。

## ④カツオ（生鮮）

### 生鮮カツオ（釣り）



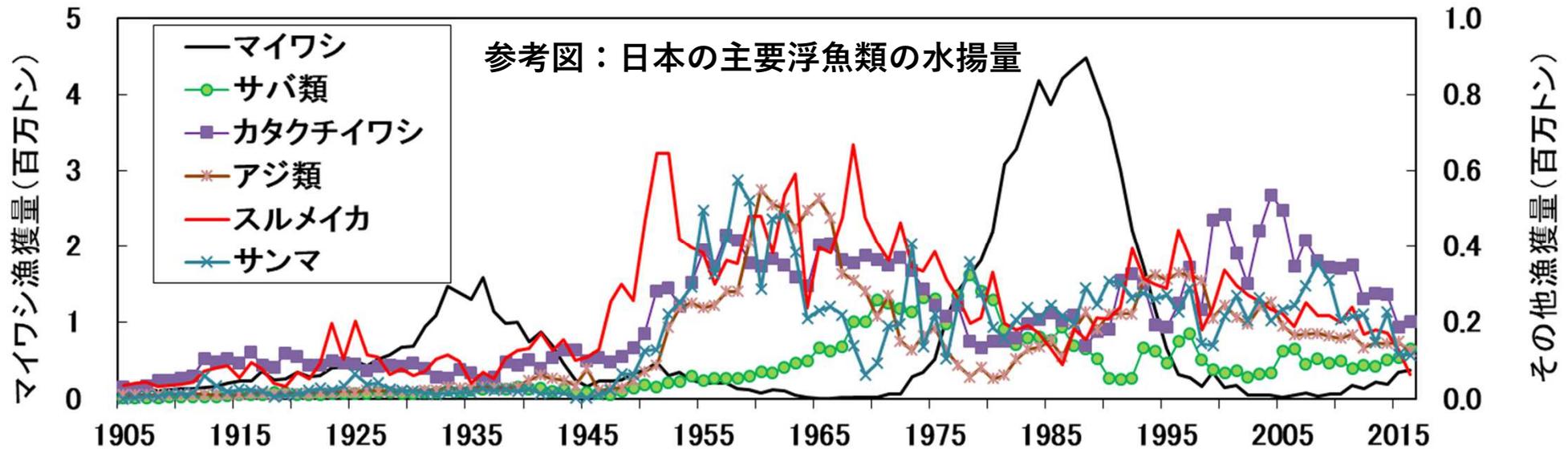
### 生鮮カツオ（旋網）



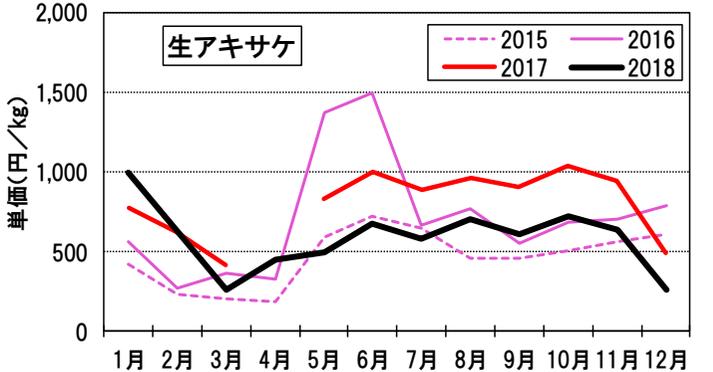
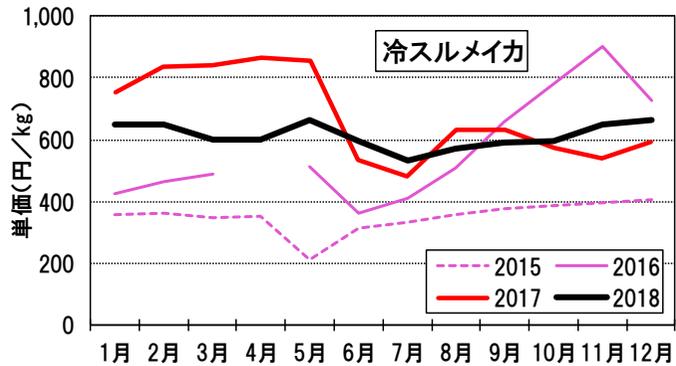
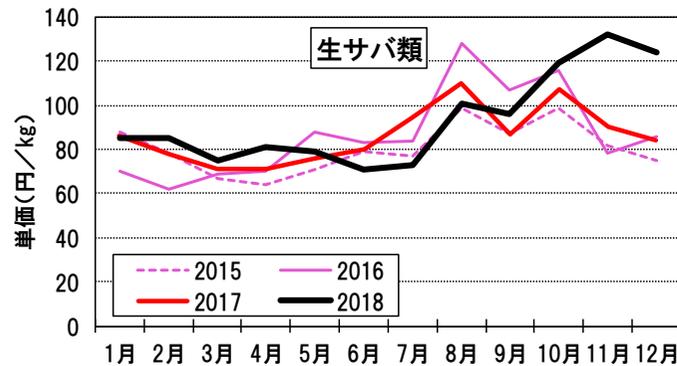
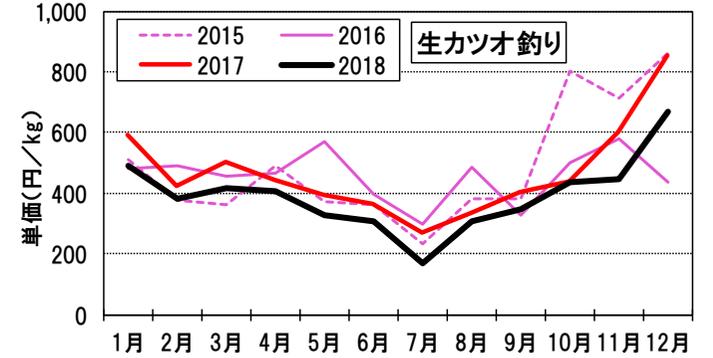
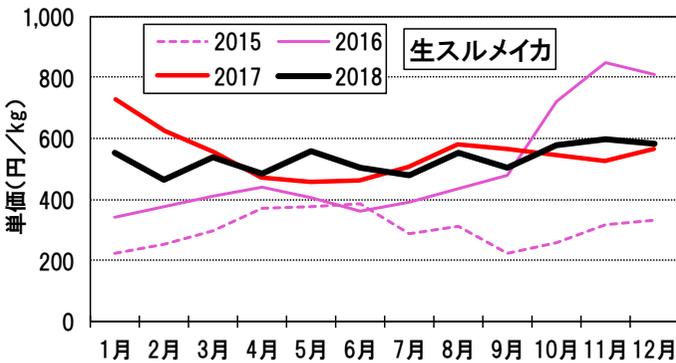
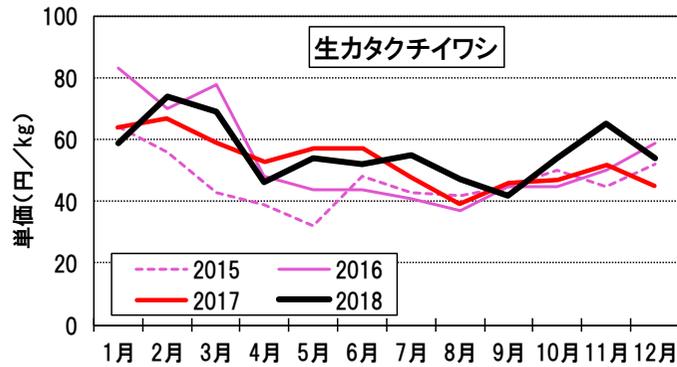
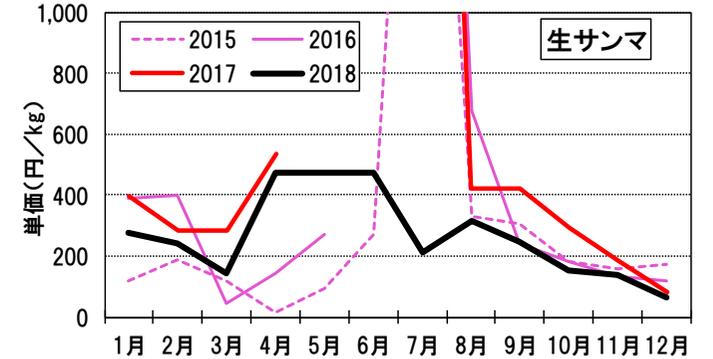
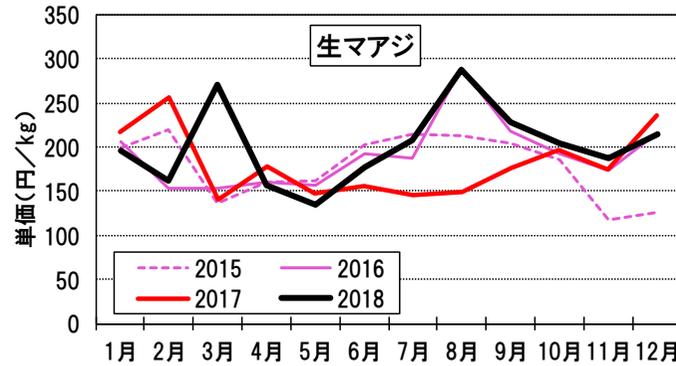
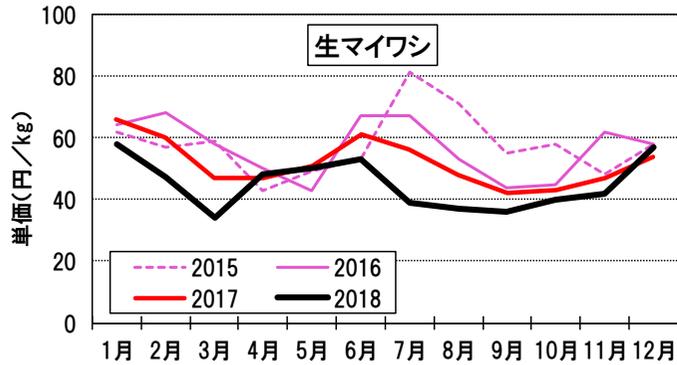
初夏～夏にアニサキス騒動で魚価安となりました。陸凍に多くが周り、タタキ用在庫が大幅に増えました。秋以降は騒動も収まり、三陸沖の暖水勢力が強かったため、三陸近海に漁場が形成され、鮮度の良い新口（当日の漁獲物）の水揚が続きました。近年、竿釣りと旋網の価格差が小さくなりました。

## 水揚量まとめ

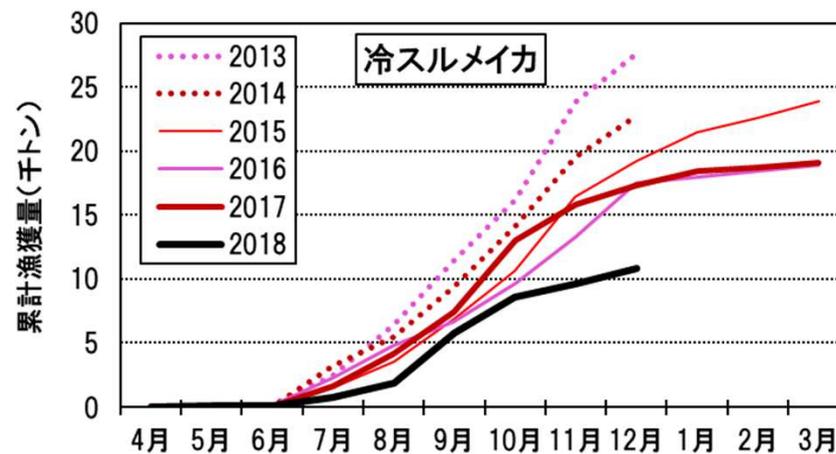
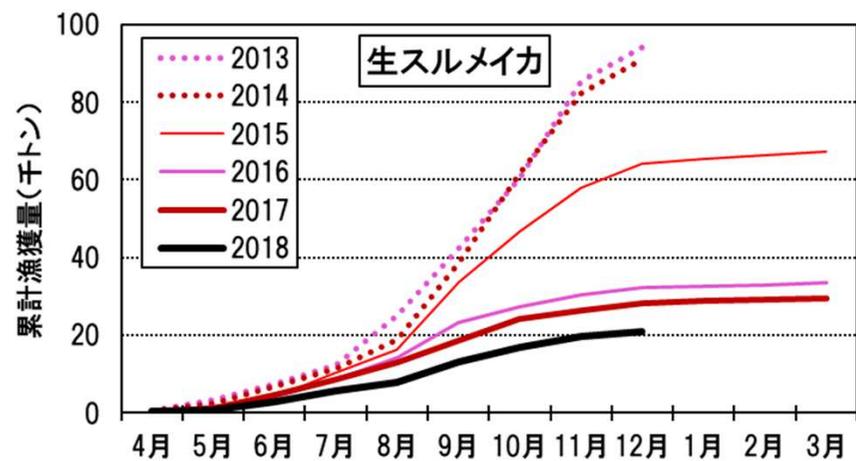
- 全国の水揚量の近年の推移はおおむね資源評価結果と一致していましたが。ただし、資源評価結果（動向）は同じ魚種でも系群により異なる場合があります。
- 近年はマイワシとサバ類（特にマサバ太平洋系群）の資源量と水揚量が増加する一方、カタクチイワシ・スルメイカ・サンマでは減少傾向にあります。このような状態は1970年代にも認められ（参考図）、魚種交替の兆候とも見られます。
- サンマ、カツオ、サケ、マサバ太平洋系群については、外国船（含：IUU）による漁獲や環境変動（カツオについては来遊状況）を注視する必要があります。



# 【参考】 2015～2018年の主要魚種の月別産地単価（円/kg）



【参考】 スルメイカの水揚量の推移（生鮮と冷凍：漁期年の場合）



魚種・系群	動向 27年度	動向 28年度	動向 29年度	動向 30年度
マイワシ太平洋	増加	増加	増加	増加
マイワシ対馬暖流	増加	横ばい	横ばい	増加
カタクチイワシ太平洋	減少	減少	減少	減少
カタクチイワシ瀬戸内海	横ばい	横ばい	横ばい	増加
カタクチイワシ対馬暖流	減少	横ばい	横ばい	横ばい
マアジ太平洋	横ばい	減少	減少	減少
マアジ対馬暖流	横ばい	増加	増加	増加
マサバ太平洋	増加	増加	増加	
マサバ対馬暖流	横ばい	増加	増加	増加
ゴマサバ太平洋	横ばい	減少	減少	
ゴマサバ東シナ海	横ばい	減少	横ばい	横ばい
スルメイカ秋生まれ	横ばい	減少	減少	
スルメイカ冬生まれ	減少	減少	減少	
サンマ	横ばい	減少	減少	
カツオ中西部太平洋	減少	—	—	
サケ(シロザケ)日本系	横ばい	横ばい	減少	

### 【参考】

2015～2018年度（平成27～30年度）の主要浮魚類の資源評価結果：資源の動向

**系群：資源の変動単位** 遺伝的に他の生物集団と区別できる集団、あるいは遺伝的に区別できなくとも、産卵期、産卵場、分布、回遊、成長、成熟、生残など、独自の生物学的特徴を有する場合が多い。

**動向：資源量（資源量指数、漁獲量）の過去5年間の推移から「増加傾向・横ばい・減少傾向」に区分したものの。**

注：すなわち今後の予測ではない。

出典：<http://abchan.fra.go.jp/>